

認定農業者になりませんか
～市の認定を受けて、担い手農家を支援～

農業経営の規模拡大や生産方式の合理化など農業経営の改善に取り組む農業者が、農業経営改善計画を作成し、市町村の認定を受けて地域の担い手農家を関係機関・団体が支援する制度です。

現在、市内では37人が認定農業者に認定されています。

- ・農業近代化資金や農業経営基盤強化資金（スーパーL資金）などの低利資金の利用
 - ・農業経営基盤強化準備金制度による、税制の特例措置
 - ・農業者年金の保険料の国庫補助（2～5割）など
- お問い合わせ：市農林振興課（内線6104）まで

農業者年金に加入しませんか
～老後の備えは万全ですか？～

農業者の平均余命と健康寿命は、3歳ほど長いと言われています。農業者年金で老後に備えましょう。

- 加入資格 ① 年間60日以上農業に従事していること ② 国民年金の第1号被保険者（保険料納付免除者は除く）③ 60歳未満の人

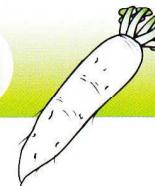
■農業者年金のメリット

- 少子・高齢時代に強い積立方式の年金
- 農業者年金は終身受給
- 支払った保険料は全額社会保険料控除
- 保険料補助（政策支援加入）あり



お問い合わせ：市農業委員会（電話33-1503）、JA紀北かわかみ本店総務課（電話42-5172）

農 家 訪 問



—野菜栽培の平田和美さん—

高野口町田原の平田和美さんの一家は水田を中心とした専業農家です。近年野菜栽培にも力を入れ、和美さんを中心にナスビなどの夏野菜、ダイコンなどの冬野菜にも取り組まれています。また、米の加工品としての餅、自家野菜を加工した漬物づくりも手がけ、新鮮な季節の野菜とともに橋本市高野口町ふれあい農作物販売所でも販売しています。「販売所での楽しさは、新鮮さを求める業者や消費者の声、多様化した消費者ニーズを直接聞いて、地域の仲間と話し合いながら野菜栽培の方法や販売所運営などを改善できることです」と語ってくださいました。

和美さんが所属する橋本市生活研究グループは、市内小中学校の学校給食に地元食材による手作りみそを供給する一方、給食時に学校訪問し、児童・生徒に伝統的な日本食のみそについて語る取り組みをされています。この活動に対して、平成28年3月に和歌山県教育推進表彰を団体で受賞されました。



今年度最後の冬野菜を収穫する和美さん

<編集後記>

農地の担い手への集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消などの一層の推進を図るため、いよいよ4月から農業委員会法・農協法・農地法の一部を改正する一括法が実施されます。時代の変化に対応した『農業委員会だより』をめざします。



【編集委員】

- ・委員長 土井清美
- ・副委員長 池田泰子
- ・委員 芋生孝治 平田秀規
- 中山光弘 林 義文



橋本市 農業委員会だより



農業委員章



▲似賀尾池

引の池（応其）、岩倉池（霜草など）をはじめ、本市では大小併せて610か所のため池があります。その中でも似賀尾池（恋野）は、天然水のみの本市最大規模のため池で、恋野地区の主要な6つの池に水を供給しています。



- 主な内容
新任農業委員の抱負…2ページ
全国農地ナビのご利用を…3ページ
農家訪問…4ページ

橋本市農業委員会
橋本市東家一丁目1番1号
TEL. 0736-33-1503

会長あいさつ



橋本市農業委員会会長
芋生 孝治

月日は早く過ぎ去り、この「農業委員会だより」も発刊6年を過ぎ7年目を迎えていました。世の中の変化も激しく「かけがえのない農地を守る」という表題さえも農山村の過疎化・荒廃を目の前にして空しさを感じています。

TPPの交渉の進展とともに農業委員会法が改正され、農地中間管理機構の拡充と農産物の海外輸出が大きく報道されています。

地方創生が呼ばれる中、各農家の皆さんも果樹・野菜に工夫され、新規に取り組んでおられます。私自身もいろいろと挑戦・失敗を繰り返し、今年は恋野ブランド米に取り組んでいきたいと思っています。

私たち橋本市の農業委員は、その責任・任務の重大性を自覚し、農地法等に基づく審議と共に地方の発展に少しでも前進していくことを念願しています。



新任農業委員の抱負

()内は担当地区

木下善久
(橋本・市脇)



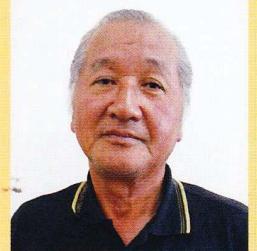
農家の高齢化が進み、耕作放棄地が増加しています。地域のみなさんの意見を聞き、また、行政、JA等と協力し、どのようにしていけば良いか考え、行動していきたいと思います。

那須久司
(妻・原田・小原田)
菖蒲谷



地域の緑を守る農業を考えた場合、農業の後継者不足から農地の保全が重要な課題となっています。先に実施した農地利用状況調査でも私の予想を超える耕作放棄地が見られました。皆様と一緒に協力して農地保全に努め緑を守ります。

宮田英之
(山田・吉原)



農業従事者の高齢化、人口減少により農業を取り巻く環境は厳しい状況になっています。私達の地区にも休耕地、耕作放棄地が少し見受けられるようになりました。地域の皆様のご意見、ご協力を頂き、農地の有効利用に取り組んでいきたいと思います。

田中良男
(岸上・神野々・柏原)



量より質の時代にあって、農地の有効利用・地域の景観維持などに関する活動を通じて、生産地名「和歌山・橋本」の向上に努めたいと考えております。“労を惜します身軽に動く”を念頭にして行動させていただくつもりです。

中村義和
(紀見峠・沓掛・柱本)
三石台・光陽台



紀見北部地区の農地の利用状況調査に従事して、予想以上に山間部では耕作放棄地が増えていると実感しました。各地区的皆様の協力を得て、農地の有効利用等に努めます。

田中公一
(橋谷・御幸辻・胡麻生・北馬場)
城山台・柿の木坂・しらさぎ台
みゆき台・さつき台



柿・桃・梨・林檎・柑橘など果樹を中心に安心・安全な農作物を経済的に生産し、供給しています。「土と共に生きる」を農家さんと共に、地域のワクワクする農業振興と休耕・耕作放棄地解消に取り組んでいきたい。



岡本光司
(河瀬・上兵庫・下兵庫・中島)

後継者不足で農業の持続ができなくなり休耕地が多く出ています。農地の有効利用していくことに取り組んでいきます。また、農地利用状況調査が地域で十分に認識されるように努め、農林振興に役立ちたい。



北脇 優
(中下・芋生・垂井)

農業従事者の高齢化、後継者不足、農業環境の悪化等により農業経営の未来には厳しいものがあります。耕作放棄地が増加する中、農地利用状況調査を経験したことを踏まえ、今後の農業について考えてゆきたいと思います。



浦木博行
(山内・霜草・平野)

農地の保全と有効活用の推進を目指して、地元霜草のみならず山内・平野の耕作放棄地、休耕地の現地調査に従事しました。後継者問題など厳しい現実に直面し、引き続き地域のご意見を聞き、農地の有効活用に役立てるよう取り組んでまいります。



恩地秀岳
(清水・南馬場)

教職生活が長く、農地の利用状況調査は初体験でした。農業従事者の平均年齢が66歳の現状、「担い手への農地集積」が時代のニーズに合う「地方創生」の一歩と捉え、微力ながら農業委員として努めたいと願っています。



福井博一
(名古曾・伏原・応其)

農地の利用状況調査に従事して、灌漑用水のありがたさを再認識しました。農業を取り巻く環境は人口減少に伴い厳しくなっています。他の委員様とも力を合わせて農業振興のために努力します。



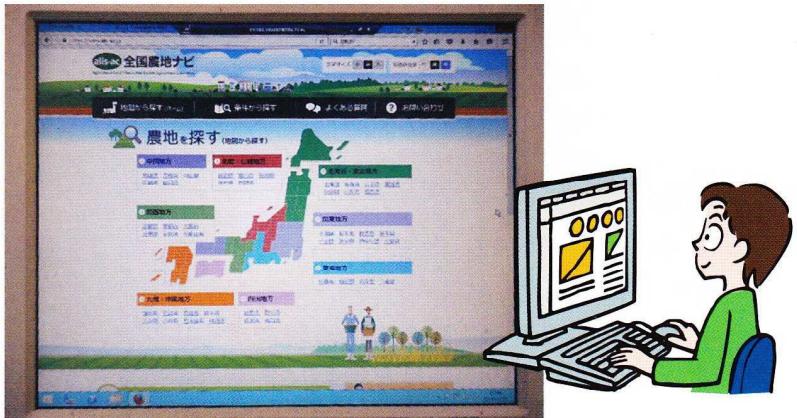
平田秀規
(田原)

今まで先輩たちが守ってきた農地ですが、農業を取り巻く環境は厳しい状況です。皆様に協力をしていただき、農業振興に少しでも役に立てるよう努力していきたいと思います。



守内慶次
(下中・嵯峨谷・竹尾)

当地域の現状は、家族的経営が多く、採算のとれるよう関係機関の指導をいただきながら地産地消に取り組んでおります。今後若い人々と共に農地の多目的機能を守るために、地域ぐるみで考えていかなければならないと思います。



全国農地ナビのトップページ

一全国農地ナビをご利用ください

農地情報公開システム「全国農地ナビ」がスタートし、インターネットを利用して橋本市内のみならず全国の農地情報（所在・地番、地目、面積など）を知ることができます。「全国農地ナビ」で検索し、アクセス（アドレスは <http://www.alis-ac.jp>）して農地の集約・集積にお役立てください。

なお、農地台帳は農業委員会事務局窓口で一部閲覧することができます。